

必要諸室		全般							施設要求水準 充足チェック (○のみ)	留意事項(要求水準を充足するための工夫等)	
部門名	諸室名	要求面積			備考	提案面積			施設要求水準		
		室数	想定 面積	規模 ㎡		室数	想定 面積	規模 ㎡			
1. 病棟部門					①栄養課との配膳・下膳動線に配慮する ②リハビリ部門との患者動線に配慮する ③ナースコールはスマートホンと連動させる（別途工事関連：参考） ④病室出入り口付近に手指消毒を設置する ⑤各病棟出入口のセキュリティに配慮するが、産科エリアは扉を設け、セキュリティゾーンを独立して設ける ⑥PCが利用できる無線LAN回線を設置する ⑦産科が利用する病棟と小児科が利用する病棟は別とする。産科が利用するエリアは、他診療科が利用するエリアと区分できるようにする					① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	
※ 記載例	診察室	3	12	36		3	12	36	①可能な限りバックヤードで他の診察室等と繋がっていること ②ストレッチャー、車いすでも利用可能とすること	①○ ②○	ブロック毎にバックヤードを可能な範囲でつな げている。
HCU	◆HCU全体				20床				①空気清浄度はクラスⅢ（HEAS）とする ②病棟出入り管理としてインターホンを設ける ③セキュリティを高めるために患者とスタッフの動線に配慮する ④ベッド間にはパーティションを設ける	① ② ③ ④	
	病床（オープン）	10			10床、うち4床は20㎡ ／床以上、残りは15㎡ 程度				①ベッド間には隣のベッドが見えるよう窓付きパーティション等を設け、汚 染時に清拭対応しやすいものに配慮する ②スタッフステーションからの視認性を確保する	① ②	
	病床（個室）	2	20以上		2床				①病室の外からの視認性を確保する	①	
	病床（4床室）	2	40以上		8床				①ベッド間にはパーティションを設ける ②病室の壁を窓付きパーテーションにするなど、スタッフステーションか らの視認性を確保する	① ②	
	血液浄化治療室	1	25						①HCUに隣接して3床分設け、入院患者のうち血液浄化療法が必要な患者へ の治療を行う ②透析用給水設備を設け、個人用透析装置で対応する ③腹水濾過濃縮療法を行うためのスペースを確保する	① ② ③	
	スタッフステーション	1	適宜						①オープンカウンター方式とし、各病床が見渡しやすいように配慮する	①	
	準備作業室	1	20						①薬剤や診療材料の保管、点滴準備作業を行うスペースを確保する ②清潔と不潔を分けた備品洗浄等を実施するスペースを確保すること	① ②	
	汚物処理室	1	15						①病床から使いやすい場所に設ける	①	
	器材庫	1	15								
	清潔リネン庫	1	4								
	不潔リネン庫	1	4								
	廃棄物庫	1	3						①廃棄物用カートを配置する	①	
	当直・仮眠室	2	6						①医師当直室、看護師当直室を設ける	①	
	スタッフ休憩室	1	15						①6-8人程度収容できるスペースとする	①	
	カンファレンス室	1	15						①8-10人程度が打合せできる場所を想定する	①	
	スタッフWC	2	2								
	患者用多目的トイレ	1	4								
	IC室	2	8	16					①手術部門のIC室と兼用とする	①	
一般病棟	病室（無料個室）		13以上						①各室に洗面化粧台（車椅子での使用に配慮されたもの）を設けること ②部屋別に空調の調整を可能とすること ③PCが利用できる無線LAN回線を設置する ④病室入口付近に手指消毒・PPE物品等を収納できるようにすること	① ② ③ ④	
	病室（有料個室）		18以上						①各室に洗面化粧台（車椅子での使用に配慮されたもの）、シャワー、WC を設けること ②有料個室数は、全体の30%程度とする ③部屋別に空調の調整を可能とすること ④PCが利用できる無線LAN回線を設置する ⑤病室入口付近に手指消毒・PPE物品等を収納できるようにすること	① ② ③ ④ ⑤	
	同上ユニ ットシャワート イレ		含						①各病室内から直接利用できるようにする ②車椅子対応とすること	① ②	
	病室（個室） 感染症対応 病室		18以上		陰圧（陽圧切替）対 応 1室/フロア				①各室に洗面化粧台（車椅子での使用に配慮されたもの）を設けること ②搬送については動線に配慮する ③PCが利用できる無線LAN回線を設置する ④うち1床は、透析用給排水を設ける。（感染症を有した要透析患者への対 応のため）	① ② ③ ④	
	同上ユニ ットシャワート イレ		含						①各病室内から直接利用できるようにする ②車椅子対応とすること	① ②	
	同上前室		含								

必要諸室		全般							施設要求水準 充足チェック (○のみ)	留意事項(要求水準を充足するための工夫等)	
部門名	諸室名	要求面積			備考	提案面積			施設要求水準		
		室数	想定 面積	規模 ㎡		室数	想定 面積	規模 ㎡			
	病室（個室） 無菌室		18以上		4室/病院				①各室に洗面化粧台（車椅子での使用に配慮されたもの）を設けること ②PCが利用できる無線LAN回線を設置する ③2床で1室の前室を共用し、無菌室として利用しない場合は、直接廊下側に 出られるように配慮する ④無菌治療室管理加算1施設基準に必要な清浄度（クラス6（ISO）以上）、 滅菌水対応を確保とする ⑤前室との間の視認性を確保するとともに、照明や採光など明るい療養環 境の確保を図る	① ② ③ ④ ⑤	
	同上ユニッ トシャワート イレ		含						①各無菌室内から直接利用できるようにする ②車椅子対応とすること	① ②	
	同上前室		含						①2床に1つの割合で設ける	①	
	S C U		適宜		3床				①一般病棟と同一看護単位で運用する、もしくは、別看護単位としても運 用できるようにする (将来6床に増床できるよう面積を確保するとともに、設備を計画するこ と)	①	
	観察室		20		1/病棟				①スタッフステーションに隣接し、2～3人程度を収容観察できる観察室を 設ける ②スタッフステーションからの視認性を確保するとともに、患者廊下側か ら見えづらいように配慮する	① ②	
	スタッフステーション		適宜		1/病棟				①スタッフステーションから見舞者等の入棟を監視できるよう配慮する （目視もしくはカメラ・インターホンの活用等） ②各病床への動線短縮や、視認性に配慮した場所に設けること ③記録コーナー、ドクターコーナー、師長コーナー、メディカルアシスタ ントコーナーを設ける ④廃棄物容器（使用中）の設置スペースを、患者から見えない位置に設け ること ⑤カウンターの形状は設計時に検討とするが、スタッフステーションから の音が外部に漏れにくいように配慮する。 ⑥薬剤や診療材料の保管、点滴準備作業を行うスペースを設け、他の業務 エリアとの動線交錯がないように配慮する	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	
	準備作業室		20		1/病棟 もしくは1室 /フロア				①清潔と不潔を分けた備品洗浄等を実施するスペースを確保し、食器洗浄 器、乾燥機、浸漬消毒、物品保管を行う ②小児科が入る病棟（フロア）については、調乳瓶やミルクの保管を行う ③面積が確保できない場合、フロアに1か所での整備でも構わないが、共用 しやすい位置に配置する	① ② ③	
	汚物処理室		15		1室/病棟				①マセレーターもしくはベッドパンウォッシャーや、洗浄用設備を設置 し、ポータブルトイレ等を保管する ②各病室からのアクセスにも考慮すること	① ②	
	器材庫		15		1室/病棟				①病棟で使用する各種機材の保管を行う	①	
	諸車置場		適宜		フロア内に適宜配置				①車椅子7-10台/フロア、ストレッチャー1台/フロア、歩行器3台/病棟の置 場を設ける ②廊下に面して設け、上部を器材棚として設置する	① ②	
	清潔リネン庫		4		1室/フロア				①フロア中央付近に集中して設ける	①	
	不潔リネン庫		適宜		分散				①病棟内に分散して複数室設ける（廊下壁面等の複数個所でも可）	①	
	廃棄物庫		3		1室/フロア				①廃棄物用カートを配置する	①	
	仮眠室		6		2室/フロア						
	スタッフ休憩室		20		1室/病棟				①病棟ごとに1室設け、10-15人程度座ることができるスペースを想定する	①	
	カンファレンス室		25		1室/フロア				①10-15人程度のカンファレンスができるようなスペースを確保すること	①	
	スタッフWC		2		2-3室/フロア						
	I C 室		8		1室/病棟				①各病棟に 1 室、4人程度が利用できる面談室を確保する	①	
	病棟リハビリエリア		36		1室/フロア				①一般的な4床室程度の広さとする	①	
	患者WC		適宜		フロア内に適宜配置				①無料個室4-8室に1室程度設け、病室からの距離など位置関係については 使いやすさに配慮する。 ②分散集中型トイレとする ③車椅子対応トイレを2室設け、フロアに1室はオストメイト対応とすること （左右の向きが異なるトイレとし、半身の不自由な患者が使用しやすい 形とする） ④重症系ユニットは、清潔エリア内には設けず、エリアを出たところに手 術室と兼用で設ける ⑤患者家族用トイレと車椅子対応トイレを兼用できるように配慮すること	① ② ③ ④ ⑤	
	ユニットシャ ワー (US)		適宜		2/病棟 うち1室はストレッ チャー対応				①脱衣室を設けること ②段差がなく入室することができること	① ②	
	厨房エレベーター 室（下膳 室）				1室/フロア				①6食分の下膳ロッカーを配置できるスペースを確保すること ②厨房用エレベーターホールに隣接して設ける	① ②	
	食堂・デイルーム		50		1室/フロア （もしくは分散で確 保）、面積は左記に 関わらず、当該フロ ア病床数×0.5㎡以上				①食堂加算を取得できるスペースを確保すること ②手洗器は車椅子対応とすること ③給茶機、自動販売機を置ける場所を確保する ④家族控室としても利用する ⑤患者交流スペースを兼ねられる広さとする	① ② ③ ④ ⑤	
	パントリー				1室/フロア				①電子レンジ、給湯器を設置する ②配膳車保管スペースを設置する ③配膳を行うEVとの動線短縮に配慮すること ④食堂・デイルームに隣接配置すること	① ② ③ ④	

(様式 1 1) 諸元表チェックリスト										グループ名：		
必要諸室			全般							施設要求水準 充足チェック (○のみ)	留意事項(要求水準を充足するための工夫等)	
部門名	諸室名		要求面積			備考	提案面積			施設要求水準		
			室数	想定 面積	規模 ㎡		室数	想定 面積	規模 ㎡			
周産期病棟	L.D		3	15以上	45				①手術対応は原則手術部門内で実施する。空気清浄度はクラスⅢを確保し、必要に応じて陰陽圧切り替え可能とする ②洋室形式での整備を行う ③医ガスは母体用と新生児用を頭側に設ける ④分娩用機器の保管スペースを確保する。また分娩台にストレッチャーで横づけでき、必要な機材を配置できるスペースを確保する。 ⑤家族の待合い用のスペースを確保すること ⑥陰陽圧切替が可能な部屋とする	① ② ③ ④ ⑤ ⑥		
	患者用WC		1	4	4				①LDに隣接して設ける	①		
	準備・汚物処理室		1	8	8				①各LD室からの動線に配慮する	①		
	新生児室		1	40	40	未熟児4床（許可病床内に含む）＋母子同室外成熟児用			①入室のセキュリティに配慮する ②空気清浄度はクラスⅣ（HEAS）とする ③未熟児管理用の4床（許可病床内）と母児同室でない成熟児（4人程度）を管理するスペースを設ける。	① ② ③		
	器材庫		1	15	15							
	沐浴室		1	12	12				①指導スペースを併設する	①		
	調乳・授乳室		1	12	12							
	内診室		1	15	15				①ストレッチャー・車いすが入るスペースを確保すること ②エコー・洗浄ユニットが入るスペースを確保すること ③施錠が可能な扉とすること ④医ガスの配管は頭側に設けること	① ② ③ ④		
	交流スペース		1	20	20				①母親同士の交流の場にふさわしい設えとする ②授乳室に隣接する	① ②		
	医師当直室		1	12	12							
	男性用トイレ		1	2	2							
2. 外来部門								①患者呼び出しはモニターとマイクで行う ②診察室の出入り口はストレッチャー対応とし、扉内にカーテンを設置して視線に配慮する ③診察室は遮音性に配慮し、隣接する診察室の話し声が聞こえないようにする ④診察室には医師以外に入力補助者の作業スペースを設ける ⑤診察室の出入口は2箇所設置する	① ② ③ ④ ⑤			
外来	共通仕様診察エリア	診察室	37	10以上	370				①診察、検査説明、看護外来（リンパ浮腫外来等）、フットケア等で多目的に利用する ②うち1か所にフットケア用の足洗い用流し台を設置する ③うち、感染診察エリアに近い2-3室程度は、陰圧切替とすることができるようにする	① ② ③		
		処置室	8	10以上	80				①処置室と診察室間の行き来をしやすいような配置とする	①		
	心理室		1	10以上	10				①箱庭療法などの心理療法ができるだけのスペースを確保する ②できるだけ採光など明るい環境になるように配慮する ③共通仕様外来診察室の付近に配置し、精神科外来と隣接で実施できるようにするのが好ましい	① ② ③		
	感染症診察エリア	感染症診察室	1	10以上	10				①陰圧対応とする ②共通仕様診察エリア付近に配置し、感染症流行時に共通仕様診察室2-3室程度を含めて拡大して運用できるようにする。	① ②		
		感染症用待合	1	6	6							
		採痰コーナー	1	適宜					①診察室の並びに採痰コーナー（陰圧管理が可能な個室）を設ける	①		
	小児科	診察室	3	10以上	30							
		処置室	2	10以上	20							
		感染症診察室	1	10以上	10				①陰圧対応とする	①		
		感染症用待合	1	10	10							
		感染症用WC	1	4	4							
		汚物処理室	1	6	6				①バックヤードを含めて配置を検討	①		
	耳鼻咽喉科	診察室	2	20以上	40				①診察室内に診察机、耳鼻科診療ユニット（顕微鏡付）、耳鼻科診察椅子、検査機器キャリーを配置し、かつ、ストレッチャー患者の動線を確保する	①		
		回復室	1	20以上	20				①2～3ベッドを設置するスペースを確保する ②診察室に隣接させる ③平衡機能検査、重心動揺検査を行えるスペースを確保する	① ② ③		
		スタッフ通路		適宜		適宜配置			①器材洗浄、機器保管、PPE装着などの準備を行えるスペースを確保する ②内視鏡洗浄装置を配置し、周りは排気環境に配慮する	① ②		
	診察検査室	3	10以上	30								
	診察室兼処置室	1	15以上	15								

必要諸室			全般							施設要求水準 充足チェック (○のみ)	留意事項(要求水準を充足するための工夫等)
部門名	諸室名		要求面積			備考	提案面積			施設要求水準	
			室数	想定 面積	規模 ㎡		室数	想定 面積	規模 ㎡		
	眼科	中待合		適宜		適宜配置					
		暗室	3	12	36						
		眼科検査室	1	40	40						
	泌尿器科	診察室	3	10以上	30						
		処置室	2	10以上	20						
		膀胱鏡室	1	10以上	10						
		スタッフ通路		適宜		適宜配置				①器材洗浄、機器保管、PPE装着などの準備を行えるスペースを確保する ②内視鏡洗浄装置を配置し、周りは排気環境に配慮する	① ②
	産婦人科	産婦人科診察室	3	10以上	30						
		産婦人科内診室	3	10以上	30					①診察室からの出入りができない独立型とし、外から見えない配慮がされていること	①
		カウンセリング室	1	12以上	12					①5名程度が入れるスペースを確保する ②助産外来を必要時に行えるようにストレッチャーを配置できるようにする	① ②
		N S T ・処置室	1	20以上	20					①処置ベッド1台分+リクライニングチェア3台分のスペースを設ける ②酸素投与を行う ③リカバリーベッドを設置するスペースを確保する	① ② ③
		スタッフ通路		適宜		適宜配置				①準備スペースを設ける ②器材洗浄、機器保管、PPE装着などの準備を行えるスペースを確保する ③内視鏡洗浄装置を配置し、周りは排気環境に配慮する	① ② ③
		待合		適宜		適宜配置					
	スタッフ通路・スタッフWC			適宜		適宜配置				①スタッフWCは男女別に設け、近傍にスタッフが休憩できるエリアを設ける ②診察室とスタッフ通路の間は扉とカーテンを併設する ③外来スタッフ用の荷物置き場として棚を設置するスペースを確保する	① ② ③
	総合案内		1	5	5					①以下の機能を担う外来受診患者の受診科相談・案内、診察申込書記入の案内、家族・面会者などの質問対応、身体の不自由な方への対応、再来受付機の使用方法的説明等 ②カウンターの高さは、車いすでの利用者にも対応できるよう、ユニバーサル仕様とする。	① ②
	総合受付					医事部門に記述する					
	会計受付					医事部門に記述する					
	ブロック受付			適宜		適宜配置				①各診察ブロックに1ヶ所ずつ設置する ②カウンターの高さは、車いすでの利用者にも対応できるよう、ユニバーサル仕様とする。	① ②
	待合			適宜		適宜配置				①診察室前待合スペースに車椅子待機スペースを適所に設ける ②電話コーナーを1か所設ける ③ブロック受付の付近に災害時用の医ガス・非常用電源を確保する	① ② ③
	計測コーナー			適宜		外来フロアごとに1か所				①血圧・身長・体重測定を実施 ②外来フロアに階毎に1箇所設ける	① ②
採血 採尿 中央処置	中央採血室		1	50	50					①採血カウンターを6ブース設置し、車椅子で使用可能なスペースとすることまた、ベッド採血を想定し、少なくとも2ベッド分のスペースを確保すること ②採血受付コーナーを設置する	① ②
	採尿WC（男・女・車椅子）		1	60	60					①一般WCと共用 ②男性：小3箇所・大3箇所、女性6箇所、車椅子トイレ1箇所を設ける ③ベビーカーが入るスペースを確保する	① ② ③
	中央処置室 処置ベッド		1	110	110					①処置ベッド8～10台程度のスペースを確保する ②医師が関わらない各種処置、自己血貯血・輸血を実施する ③中央採血室と可能な限り隣接させる	① ② ③
	中央処置室 スタッフステーション		1	-						①準備スペースを設ける ②受付コーナーを設ける	① ②
	通路スペース		1	適宜							
	待合		1	適宜						①車椅子患者が待つことができ、ストレッチャーが入ることも想定したスペースを確保する	①
化学療法 部門	■外来化学療法部門									①外来部門、薬剤部門との動線短縮に配慮する ②中央処置室との位置関係に配慮する。	① ②
	化学療法室		1	250	250					①20床分のスペースを設置する（うち1室は個室） ②外来化学療法加算の施設基準を取得することを前提に整備する ③ベッドサイドにTVを設置する ④窓を設ける ⑤出入り口や通路はベッド搬送が十分可能な広さとする ⑥臭気や騒音に特に配慮した環境とする ⑦廃棄物を保管するスペースを確保する	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦
	スタッフステーション		1	含						①6人分のスペースと準備スペースを設ける	①

(様式 1 1) 諸元表チェックリスト

グループ名：

必要諸室		全般							施設要求水準 充足チェック (○のみ)	留意事項(要求水準を充足するための工夫等)	
部門名	諸室名	要求面積			備考	提案面積			施設要求水準		
		室数	想定 面積	規模 ㎡		室数	想定 面積	規模 ㎡			
	薬準備コーナー	1	含								
	診察室	1	10以上	10					①緊急時の処置室としても使用する	①	
	面談室	1	10以上	10					①薬剤指導や各種相談を行える場所として使用する	①	
	倉庫	1	6	6							
	汚物処理室	1	6	6							
	化学療法WC	1	4	4					①車椅子用トイレとする ②洗面用鏡を設ける	① ②	
	受付コーナー	1	含								
	清潔リネン庫	1	2	2							
	汚染リネン庫		適宜		適宜配置						
	待合・通路部分	1	適宜						①同時に4-5名分の待合室を設ける	①	
3. 患者総合支援センター部門					①入退院支援センター、総合相談室、在宅療養支援室、地域医療連携室としての業務を行う ②医事課事務室との位置関係に配慮する				① ②		
患者総合 支援セン ター部門	事務室	1	120	120					①同時に30人程度が作業できるスペースを設ける ②ロッカーや書棚等の設置を行う	① ②	
	説明相談ブース	7	9	63					①車椅子対応で7ブースの設置を行う。1ブースの広さは2人が座れる程度の幅を確保する。 ②プライバシーに配慮したカウンターとする	① ②	
	相談室	8	8以上	64					①同時に4-5人が使用できるスペースを設ける ②車椅子で入室ができるものとする ③出入口2つ、監視カメラ、呼出ボタンを設置する ※がん相談と兼用 ④相談室のうち一部は、明るい雰囲気を確保できるように配慮する ⑤開業医の控室として兼用できるようにする	① ② ③ ④ ⑤	
	受付カウンター	1	適宜								
	待合ラウンジ	1	40	40					①20人程度が同時に待てるスペースを設置する	①	
	情報コーナー	1	20	20					①チラシ棚、インターネットコーナー、患者用図書を設置する	①	
	カンファレンス	1	20	20					①同時に10人程度が使用できるスペースを設ける	①	
	スキャンコーナー	1	10	10					①2人程度の執務スペースとする ②事務室に隣接して設ける	① ②	
4. 救急部門（感染症外来・災害対応を含む）									①救急車（複数台）や自家用車がアクセスしやすい位置に配置する ②感染者専用出入口はその他と分離し、インターホンを設ける ③救急受付と守衛窓口は兼用することもできる ④放射線検査部門との近接性に配慮する ⑤手術部門との動線短縮に配慮する ⑥薬剤部との近接性と薬品搬送動線に配慮する ⑦感染拡大時や災害時のトリアージスペースを救急部門との動線に配慮した位置に配置する	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	
救急部門	風除室・除染室	1	20	20					①除染シャワーを設ける	①	
	車椅子・ストレッチャープール	1	5	5					①車椅子5台・ストレッチャープール2台分を風除室・除染室近傍に設置する	①	
	初療室	4	40以上	160	4床分				①物品保管スペースを設置する ②4人中1人分は特に重症な患者用として個室とする ③4室のうち1室を陰圧個室とする（その他3室に関しても、初療室全体で周辺諸室と比べ陰圧となる空気の流れに配慮する） ④災害時用の医ガス・非常用電源を確保する	① ② ③ ④	
	時間外受付	1	4	4					①セキュリティー・感染対策としてアクリル板パーテーションを設置する ②カウンターの高さは、車いすでの利用者にも対応できるよう、ユニバーサル仕様とする。	① ②	
	時間外事務室	1	20	20					①同時に3人が使用するスペースを設ける	①	
	トリアージカウンター	1	12	12					①救急受付近傍に設ける	①	
	救急診察室	4	10以上	40					①救急の面談・説明も実施する ②診察室の出入り口は2箇所設置する	① ②	
	処置観察室	1	40以上	40	6床分				①処置ベッド6台分のスペースを確保するとともに、災害時に追加でストレッチャーを収容できる余力を確保する。 ②リカバリー室としても利用する。 ③初療室と一続きの空間とし、両者とあわせて広い面積を確保することも可能とする。 ④感染性検体の採取を行うスペースを確保する	① ② ③ ④	

必要諸室		全般							施設要求水準 充足チェック （○のみ）	留意事項（要求水準を充足するための工夫等）	
部門名	諸室名	要求面積			備考	提案面積			施設要求水準		
		室数	想定 面積	規模 ㎡		室数	想定 面積	規模 ㎡			
	スタッフステーション	1	適宜						①処置観察室・初療室に近い位置に設け、準備スペースを設ける ②薬品管理スペースを設ける	① ②	
	説明室	1	8	8							
	救急患者用トイレ	2	4	8	車椅子トイレ（HWC） ×1、共用×1				①車いす用WC（多機能WC）を1ヶ所設ける ②個室のWCを1ヶ所以上設ける	① ②	
	感染症診察室	2	10以上	20					①陰圧仕様とする	①	
	感染症用トイレ	1	4	4					①車椅子用トイレとする	①	
	感染症用待合	1	15	15					①陰圧仕様とする ②5-6人が待てるスペースを設ける ③院外から直接入ることができるようにする	① ② ③	
	救急隊控室	1	10	10							
	汚物処理室	1	12	12					①マセレーターの設置を想定する ②ケア物品等を洗浄・消毒するスペースを確保する	① ②	
	器材庫	1	20	20					①救急医療に必要な器具や医療機器を設置する	①	
	ポータブル撮影装置置場	1	8	8					①施錠できるようにする	①	
	スタッフWC	2	2	4					①男女各1室ずつ設ける	①	
	スタッフルーム	1	12	12							
	職員更衣室	2	8	16					①男女各1室ずつ（各6人程度）設ける	①	
	当直・仮眠エリア	1	40	40	当直・仮眠室4室＋ US2室				①院内共用で使用する	①	
	通路スペース		適宜		適宜配置				①廊下に物品保管用の収納スペースを設置する	①	
	清潔リネン・ 不潔リネンス ペース		適宜						①救急エリア内に確保する	①	
	待合		適宜		救急患者・家族用、 適宜配置				①20-30人程度が同時に待てるスペースを設ける	①	
救急車寄せ（屋外）								①救急車が複数台、風雨に影響されずに入場できるように配慮する ②救急車は一方向で取り回しできるようにすることが好ましい	① ②		
トリアージス ペース（屋 外）								①新興感染症に対応した仮設スペースや災害時のトリアージスペースを確保する（敷地内での建物配置に応じて可能な規模で確保し、事業者の提案による）	①		
5. 手術部門									①重症系ユニットと手術部は清潔ゾーンで直結する配置とする ②患者動線は業者や物品動線とはできるだけ交差しないよう配慮する ③帝王切開手術は手術部門にて行う ④検体検査部門（検体搬送）との搬送設備を検討する	① ② ③ ④	
手術部	手術室1（BCR）	1	64以上	64	内寸				①空気清浄度クラスⅠ（HEAS）とする ②整形外科手術用とし放射線防護が必要 ③手術室扉を必要に応じて半開操作することができるように検討する ④手術室内装は、収納棚・スペース等を設けられるようにする	① ② ③ ④	
	前室（BCR用）	1	12	12					①BCRに接続する ②空気清浄度クラスⅡ（HEAS）とする	① ②	
	手術室2	1	64以上	64	内寸				①空気清浄度クラスⅡ（HEAS）とする ②ロボット手術装置の主な利用場所として想定する ③放射線防護を行う ④手術室扉を必要に応じて半開操作することができるように検討する ⑤手術室内装は、収納棚・スペース等を設けられるようにする ⑥ロボット保管スペースを手術室付近に確保する	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	
	手術室3	1	49以上	49	内寸				①空気清浄度クラスⅡ（HEAS）とする ②一般手術用を想定 ③放射線防護を行う ④手術室扉を必要に応じて半開操作することができるように検討する ⑤手術室内装は、収納棚・スペース等を設けられるようにする	① ② ③ ④ ⑤	
	手術室4	1	49以上	49	内寸				①空気清浄度クラスⅡ（HEAS）とする ②一般手術、緊急手術対応とし、陰圧対応とする ③放射線防護を行う ④手術室扉を必要に応じて半開操作することができるように検討する ⑤手術室内装は、収納棚・スペース等を設けられるようにする	① ② ③ ④ ⑤	
	手術室5	1	49以上	49	内寸				①空気清浄度クラスⅡ（HEAS）とする ②一般手術用を想定 ③手術室扉を必要に応じて半開操作することができるように検討する ④手術室内装は、収納棚・スペース等を設けられるようにする	① ② ③ ④	
	手術室6	1	49以上	49	内寸				①空気清浄度クラスⅡ（HEAS）とする ②一般手術用を想定 ③手術室扉を必要に応じて半開操作することができるように検討する ④手術室内装は、収納棚・スペース等を設けられるようにする	① ② ③ ④	

必要諸室		全般							施設要求水準 充足チェック (○のみ)	留意事項(要求水準を充足するための工夫等)	
部門名	諸室名	要求面積			備考	提案面積			施設要求水準		
		室数	想定 面積	規模 ㎡		室数	想定 面積	規模 ㎡			
	手術室 7	1	49以上	49	内寸				①空気清浄度クラスⅡ（HEAS）とする ②一般手術用を想定 ③手術室扉を必要に応じて半開操作することができるように検討する ④手術室内装は、収納棚・スペース等を設けられるようにする	① ② ③ ④	
	手術室 8	1	72以上	72	内寸				①空気清浄度クラスⅡ（HEAS）とする ②将来的にハイブリッド手術室に転用できる計画とする ③手術室扉を必要に応じて半開操作することができるように検討する ④手術室内装は、収納棚・スペース等を設けられるようにする	① ② ③ ④	
	将来手術室スペース	1	80以上	80					（設えについては設計時に検討し、将来ハイブリッド手術を行う場合の操作室機能も含める）		
	手術ホール		適宜						①一足制、中央ホール型の配置とし、空気清浄度クラスⅢ（HEAS）とする ②手術中のベッドは病棟に戻すものとする ③手術用手洗いを複数個所に12人程度分ける洗浄手洗い水は水道水とする	① ② ③	
	ポータブル器材置場	3	15	45					①外科用イメージ2台、ポータブルX線撮影 1 台程度を収容できるスペースとし、施錠できるようにする ②部門内に適宜分散して設置する	① ②	
	器材室	1	64	64					①ラバロ用タワー 3 台、顕微鏡2台、ほか手術部内で使用する程度を収容できるスペースとし、施錠できるようにする	①	
	ME作業室	1	20	20					①器材庫の近くに配置する	①	
	診療材料保管庫	1	20	20					①中央材料部門既滅菌保管室からの動線に配慮した場所に配置する	①	
	サテライトファーマシー	1	20	20					①薬剤部との搬送動線の短縮に配慮する ②手術で使用する薬剤を準備するためのスペースを確保する ③麻薬保管を設置し、麻薬を保管する	① ② ③	
	汚物処理室	1	12	12					①陰圧仕様とする ②各手術室からの動線の短縮に配慮するまた中央材料部門洗浄室への動線に近い場所に配置する	① ②	
	廃棄物置場	1	6	6							
	清潔リネン・不潔リネンスペース		適宜						①エリア内に清潔リネン・不潔リネンを区別して保管できるスペースを確保する	①	
	手術ホール前室	1	30	30					①ベッドの乗せ換えは行わない	①	
	受付	1	10	10					①記録コーナー（SS）の一角に設ける	①	
	スタッフステーション	1	30	30					①10人程度のスペースを確保すること	①	
	管理スペース	1	5	5					①看護師長が執務・面談に使用する ②スタッフステーションに近接して配置する	① ②	
	スタッフ控室	1	30	30					①10-15名程度のスタッフが休憩や食事を行う	①	
	I C 室	3	8	24					①手術ゾーンより直接入れるIC室が1室、手術部門とHCUと兼用可能なIC室を2室設ける。手術ゾーンから入れるIC室は、臓器を使った説明を安全に行うことができる環境を設ける ②日帰り手術部門と兼用する	① ②	
	家族待合	1	12	12					①2家族×3名の計6名を想定する（HCUと兼用とする）	①	
	OP 患者WC	2	4	8					①男女、各 1 室を設ける ②日帰り手術部門と兼用する ③清潔管理区域外に設置する	① ② ③	
スタッフ 諸室	医師控室	1	30	30					①10-15名程度が収容できるスペースとする	①	
	麻酔科医控室	1	30	30					①8-10人程度が執務できる場所を想定する	①	
	カンファレンス室	1	30	30					①同時に20人程度が利用できるスペースを設ける	①	
	職員更衣室（男）	2	50	100				①男女合わせて60人（同時に男女それぞれ15名）が使用する ②男女比率が想定できないため、フレキシブルな対応を可能とする（必要時に壁位置を変更できる壁仕様） ③中央材料部門と兼用するため、隣接する	① ② ③		
	職員更衣室（女）										
	ユニットシャワー		含む		更衣室に含む				①脱衣室を設ける ②男女を区分する ③各職員更衣室内に設ける	① ② ③	
	ユニホームストック		適宜		適宜配置						
	職員用トイレ	2	2	4					①男性用 1、女性用 1 を設置する	①	
	スタッフ通路		適宜								
日帰り手術 諸室	更衣室	2	6	12				①同時に 5 名が利用できるスペースを設ける（車椅子でも利用できるようにする）	①		

(様式 1 1) 諸元表チェックリスト										グループ名：	
必要諸室		全般							施設要求水準 充足チェック (○のみ)	留意事項(要求水準を充足するための工夫等)	
部門名	諸室名	要求面積			備考	提案面積			施設要求水準		
		室数	想定 面積	規模 ㎡		室数	想定 面積	規模 ㎡			
	処置室	1	20	20					①前処置および術後待機（リカバリ）を行えるスペースとする	①	
6. 中央材料部門									①洗浄、組立、滅菌それぞれのゾーンを分ける3ゾーン構造とする ②手術部門との位置関係に配慮する ③SPD倉庫との動線短縮に配慮する	① ② ③	
中央材料 室	洗浄消毒室	1	80	80					①洗浄機3台、乾燥機2台、その他洗浄装置が設置できる場所を想定する ②回収エリアを設ける ③組立室に対して負圧になるよう空気の流れに配慮する	① ② ③	
	洗濯乾燥機室	1	9	9					①手術部門から洗浄消毒室への動線に配慮した場所に配置する	①	
	組立室	1	100	100					①プラズマ滅菌器2台を設置する ②清浄度はクラス8（ISO）とする	① ②	
	オートクレーブ機械室		含		組立室に含む				①オートクレーブを3台設置し、4台目を設置できるスペースを確保する	①	
	既滅菌保管室	1	80	80					①哺乳瓶の消毒は中央材料部門で行う ②払出室、手術部門への動線に配慮した場所に配置する ③清浄度はクラス8（ISO）とする	① ② ③	
	払出室	1	20	20					①外来・病棟にはカートにて払出しを行うが、臨時・緊急分はバスボッ クスにて行う	①	
	中材事務室	1	20	20					①組立室や貸出物品器材庫との位置関係に配慮する	①	
	貸出物品器材庫	1	30	30					①組立室に隣接して設ける ②院外からの搬入ルートを確保する	① ②	
	R0水機械室	1	6	6							
7. 薬剤部門									①手術部門・救急部門との動線短縮に配慮する ②垂直小荷物搬送設備との位置関係に配慮する ③外部からの納品動線に配慮する	① ② ③	
薬剤部	調剤室	1	250	250					①散薬の製剤スペースは区別すること ②調剤室内はフリーアクセスフロアとする	① ②	
	製剤室	1	含						①調剤室と一体で設ける	①	
	注射剤室	1	含						①調剤室と一体で設ける ②オートアンプルディスペンサーの設置を想定する	① ②	
	無菌製剤室	1	15	15					①クリーンベンチを設置する ②空気清浄度クラス7（ISO）とする	① ②	
	抗がん剤調製室	1	15	15					①抗がん剤調製用安全キャビネットを設置する ②空気清浄度クラス7（ISO）とする	① ②	
	前室（無菌製 剤・抗がん剤 調製）	1	4	4					①無菌製剤室・抗がん剤調製室に入室するための前室を設ける	①	
	薬品保管庫	1	15	15					①調剤室とのスタッフ動線に配慮すること	①	
	D I 室	1	15	15					①3－4人程度が入り、書籍やPC操作を行えるスペースを設ける	①	
	スタッフ室	1	45	45					①同時に15人程度が利用できるスペースを設ける	①	
	当直・仮眠室	1	6	6							
	相談室	1	9	9					①同時に4～5人が利用できるスペースを設ける	①	
	配薬カート置場	1	40	40					①調剤室に隣接して配薬カート30台分のスペースを想定する	①	
	検収スペース	1	適宜						①納入物品の検収のためのスペース	①	
治験事務局	1	15	15					①CRC1～2人の執務、書類倉庫スペースを設置する	①		
8. 放射線部門（放射線治療を含む）									①救急部門・手術部門・外来中央処置室・病棟との動線に配慮する ②時間外、夜間に自由にアクセスできないようセキュリティに配慮する ③搬送用EVからCT、MRI、血管造影室の動線短縮に配慮する ④ベッド搬送による入室に対応できる設えとする ⑤プライバシーを考慮し、各検査室内から他の検査室内が見えないように配慮する	① ② ③ ④ ⑤	
放射線部 門	一般撮影室（立位・臥位）	4	33以上	132					①更衣ゾーン（車椅子で利用可能）を撮影室内に設置する ②各室に臥位・立位の設置を想定する ③内1室は骨密度測定と兼用とする ④内1室は小児専用撮影撮影台の設置を想定する ⑤救急で利用する1室は、感染症対応の陰圧対応とする	① ② ③ ④ ⑤	
	乳房撮影室	1	20以上	20					①更衣は撮影室内に設置する ②個別の待合（4人程度）を設ける ③一般撮影室に近隣する ④物品管理スペースを確保する	① ② ③ ④	
	透視室	1	36以上	36					①泌尿器・婦人科・整形外科・消化管用兼用で利用する。（ほか2台は内視 鏡部門に配置する）	①	

必要諸室		全般							施設要求水準 充足チェック (○のみ)	留意事項(要求水準を充足するための工夫等)	
部門名	諸室名	要求面積			備考	提案面積			施設要求水準		
		室数	想定 面積	規模 ㎡		室数	想定 面積	規模 ㎡			
	同上前室	1	2	2					①透視室のうち1室に設ける ②更衣室・WCに隣接する	① ②	
	同上更衣室	1	3	3					①透視室前室に接続する	①	
	同上患者WC	3	3	9					①透視室前室に接続する	①	
	血管撮影室	2	40以上	80					①空気清浄度はクラスⅢ（HEAS）を確保する	①	
	同上前室・ 前処置・回復 室	1	24	24					①血管撮影室2室の共有とするが、間でカーテンで区切れるようにする ②前処置・リカバリとして利用する	① ②	
	同上機械室	2	適宜								
	同上患者用更衣室	2	4	8					①車椅子対応とする	①	
	同上物品保管庫	1	10	10					①カテーテルの保管等を行う	①	
	同上スタッフ更衣室	2	5	10							
	同上スタッフシャワー室	1	4	4							
	将来血管撮影室エリア	1	48	48							
	C T 室	3	40以上	120					①うち1室は救急用のCT室とし、救急部門から直接入室できるように配置する ②読影室と近い位置に配置する	① ②	
	同上更衣室	4	4	16					①内2室は車椅子対応とする	①	
	同上前室・前処置・回復室	2	20	40							
	同上機械室	1	12	12							
	MR I 室	2	48以上	96					①1.5Tと3TのMRI設置を想定する ②読影室と隣接できない場合、室内に読影スペースを確保する	① ②	
	同上前室・前処置・回復室	2	20	40					①MRI室2室共通	①	
	同上更衣室	4	5	20					①内2室は車椅子対応とする	①	
	同上機械室	2	10	20							
	将来MR I エリア	1	48以上	48							
	E S W L （結石破砕室）	1	30以上	30					①更衣ゾーンを設ける ②患者用WCを設ける ③機械発生音に配慮し建物の端部への設置を検討する ④放射線部門内に設置するが、外来の泌尿器科との動線短縮に配慮する	① ② ③ ④	
	待合		適宜		適宜配置				①ベッドや車椅子の待機・移動が容易となるようなスペースを確保する ②患者用WCを付近に設ける	① ②	
	操作ホール		適宜		適宜配置				①手洗器は各撮影室毎に設ける ②画像整理管理用のPC10台程度を配置できるスペースを確保 ③できるだけ全ての検査や画像処理・管理室と接する配置とする ④フリーアクセスフロアとする	① ② ③ ④	
	受付		適宜		適宜配置				①適宜数設けるが、CT・MRI専用は1ヶ所設ける	①	
	放射線科読影室	1	30	30					①8人程度のPC作業エリアを設置する ②他科とのカンファレンスが可能なオープンスペースを作業エリアとは別で確保する ③フリーアクセスフロアとする	① ② ③	
	物品管理室	1	10	10					①検査で使用する造影剤や注射薬、各種医用材料など放射線部内の物品管理及び発注を行う	①	
	スタッフ室	1	45	45					①スタッフの執務やカンファレンス等を実施する	①	
	倉庫	1	10	10							
	ポータブル器材置場	1	8	8					①ポータブルX線装置保管のため施錠できるようにする。	①	
	当直・仮眠室	2	6	12							
	スタッフWC	2	2	4					①男女各1室ずつ設ける ②放射線検査区画内の配置とする	① ②	

必要諸室		全般							施設要求水準 充足チェック (○のみ)	留意事項(要求水準を充足するための工夫等)
部門名	諸室名	要求面積			備考	提案面積			施設要求水準	
		室数	想定 面積	規模 ㎡		室数	想定 面積	規模 ㎡		
核医学関連	管理室	1	15	15					①核医学エリアの入口付近に配置する。	①
	SPECT室	1	45以上	45						
	同上操作室	1	15	15						
	準備室	1	15	15						
	処置・回復室	1	15	15						
	廃棄物保管庫	1	9	9					①外部への直接排出口を設けること	①
	患者用HWC	1	4	4						
	ユニットシャワー	1	2	2					①核医学エリアの入口付近に配置する。	①
放射線治療関連	放射線治療装置室	1	140以上	140	迷路部分を含む。左記に関わらず必要な遮へいを確保すること。					
	治療用CT室	1	36以上	36					①別途操作室を設けること（リニアック用操作室と兼用で構わない）	①
	操作・治療計画・品質管理室	1	30	30					①治療用CT操作室と兼用であっても構わない	①
	工作室	1	30	30					①品質管理室に隣接して確保する。	①
	受付	1	2	2						
	更衣室	1	2	2						
	回復室	1	6	6						
	待合		適宜		適宜配置					
	患者用HWC	1	4	4						
	診察室	1	10以上	10						
9. 検査部門									①手術部門・重症系ユニットとの検体搬送動線を最優先として、小荷物昇降機の設置を検討する ②救急部門との検体搬送動線に配慮する隣接配置ができない場合は、気送管を設置する ③中央採血室との動線短縮に配慮し、隣接配置もしくは搬送機械による接続を検討する	① ② ③
検体検査室	検体検査室	1	200	200					①血液分析、輸血分析、一般検査の各装置を設置し、作業ができるスペースを確保すること ②時間外受付を設置する ③中央採血室とは隣接配置とするか、機械搬送による搬送動線を確保することが好ましい ④検査室内はフリーアクセスフロアとする	① ② ③ ④
	遺伝子検査室	1	20	20					①遺伝子検査関連機器を設置し、作業できるスペースを確保すること	①
	当直・仮眠室	1	6	6						
	スタッフ室	1	20	20					①検査部門全体の控室とし、小休憩・執務作業等を行う	①
	保管庫	1	10	10					①器材庫、検体保存等のスペースとして確保すること ②検体検査室の近隣に配置もしくは同一スペースに配置する	① ②
	試薬保管庫	1	10	10					①適切な温度管理ができる仕様とする ②検体検査室の近隣に配置もしくは同一スペースに配置する	① ②
細菌検査	細菌検査室	1	35	35					①安全キャビネット、検査台2台程度その他細菌検査に必要な検査機器を設置し、作業ができるスペースを確保すること ②陰圧対応とすること ③検体検査室とを繋ぐバスボックスを設けること	① ② ③
	前室	1	10	10					①細菌検査室の前室、検体受付（細菌）として設置すること ②試薬保管庫や各種消耗品を配置できるスペースを確保すること ③細菌検査室との差圧を確認するための差圧計を設置すること ④検体検査室と細菌検査室の間に設置すること	① ② ③ ④
輸血部門	輸血検査室	1	30	30					①輸血検査に関する各種機器を設置し、用手検査が行えるスペースを確保すること	①
	血液製剤管理室	1	15	15					①血液製剤を管理するための部屋を1室設け、フリーザー等を設置する ②専用受取口を設置する	① ②
生理検査	エコー室 大	3	15以上	45					①ベッド搬送可能な広さを確保すること ②所見入力や診察が行えるスペースを隣接させて確保する ③バックヤードからの出入りができるようにするまた、ストレッチャー搬送に対応すること	① ② ③

(様式11) 諸元表チェックリスト

グループ名：

必要諸室		全般							施設要求水準 充足チェック (○のみ)	留意事項(要求水準を充足するための工夫等)	
部門名	諸室名	要求面積			備考	提案面積			施設要求水準		
		室数	想定 面積	規模 ㎡		室数	想定 面積	規模 ㎡			
	エコー室 小	2	12以上	24					①所見・診察用スペースを確保すること ②所見入力や診察が行えるスペースを隣接させて確保する ③バックヤードからの出入りができるようにするまた、ストレッチャー搬送に対応すること	① ② ③	
	心電図室	3	12以上	36							
	運動負荷心電図室	1	15以上	15					①心電図室と一室配置とする ②運動負荷超音波検査も行えるスペースを確保すること ③所見・診察用スペースを確保すること	① ② ③	
	多目的検査室	1	15以上	15					①臭覚検査、RHI、SSP、CABI・ABIなど各種検査を実施する ②エコー室に近い場所に配置し、運用に応じてエコー検査を行いやすいようにする	① ②	
	呼吸機能検査室	1	10以上	10							
	臭覚検査室	1	6以上	6							
	聴力検査室	1	20以上	20					①防音室を設置する ②防音室にストレッチャーを搬送できるようスペースを確保する ③前室を設置し、防音室内の被験者を明視できるようにする	① ② ③	
	脳波室	1	10以上	10					①シールドルームとすること ②ストレッチャー搬送に対応すること	① ②	
	脳波室前室	1	適宜								
	洗髪用洗面台	1	適宜						①脳波室付近に配置する	①	
	筋電図・神経室	1	10以上	10					①脳波検査も実施できること ②ABR検査も実施できること ③シールドルームとすること ④所見・診察用スペースを確保すること ⑤ストレッチャー搬送に対応すること	① ② ③ ④ ⑤	
	技師所見スペース	1	20	20					①スタッフ通路の一角に確保する（4-5人程度の使用を想定）	①	
	待合	1	適宜						①ベッドにて患者が待つスペースを確保すること	①	
受付	1	4	4								
10. 病理部門									①排気環境に配慮が必要な箇所への対応を行うとともに、部門全体の空調計画について、建具の動作性・騒音防止などに配慮されていること。	①	
病理検査	検体受付コーナー	1	4	4					①病理部門の入口付近にスペースとして確保する	①	
	切出・固定室	1	20	20					①安全キャビネット、局所排気装置を設置する。また、ホルマリンに対応した排気設備を設ける	①	
	包埋・薄切室	1	30	30					①安全キャビネット、局所排気装置を設置するまた、ホルマリンに対応した排気設備を設ける ②切出・固定室に隣接させる ③将来的に、液状細胞診処理装置などの機器が設置できるスペース確保と、水洗等との位置調整を図る ④包埋・薄切・染色・封入・細胞診検体処理を行う	① ② ③ ④	
	顕微鏡室	1	20	20					①医師・検査技師が使用する顕微鏡、診断端末の配置スペースを確保する ②包埋・薄切室と隣接させる	① ②	
	資料・カルテ保存室	1	40	40					①院内に1室配置する ②紙報告書・パラフィンブロック・ガラス標本・肉眼写真リバーサルフィルム等を保管する ③重量物を保管する想定であるため、設計時に想定される荷重を確認し、対応すること	① ② ③	
	手術検体処理室	1	6	6					①ホルマリンに対応した排気設備を設けること ②手術部門と隣接し、術後検体の処理を行う	① ②	
	保管室	1	12	12					①ホルマリンに対応した排気設備を設けること ②切出し後臓器等保管を行う	① ②	
	試薬保管室	1	12	12					①毒劇物や引火性物質を保管するために、施錠等が配慮された保管室を設ける ②ホルマリンに対応した排気設備を設けること	① ②	
	スタッフ室	1	20	20							
霊安室・病理解剖室	職員用出入口		適宜		適宜配置						
	更衣室	1	6	6					①解剖を行う職員のための更衣室として設ける	①	
	スタッフWC	1	2	2							
	シャワー室	1	6	6	US+更衣室						
	スタッフ前室	1	10	10					①陰圧対応とすること ②更衣室・スタッフWC・シャワー室と、解剖室の間に配置する	① ②	

(様式 1 1) 諸元表チェックリスト										グループ名：		
必要諸室		全般							施設要求水準 充足チェック (○のみ)	留意事項(要求水準を充足するための工夫等)		
部門名	諸室名	要求面積			備考	提案面積			施設要求水準			
		室数	想定 面積	規模 ㎡		室数	想定 面積	規模 ㎡				
	解剖室	1	30	30					①ホルマリンに対応した排気設備を設けること ②プッシュプル換気装置を設置するために、天井にダクト接続口を設けること ③湿式対応とすること	① ② ③		
	標本室	1	15	15					①陰圧対応とすること ②ホルマリンの調整、保管場所、臓器の一時保管場所にはホルマリンに対応した局所排気口を設けること	① ②		
	遺体冷蔵庫	1	6	6					①2体分の冷蔵庫を配置する	①		
	霊安室	1	20	20					①霊安室に向かう遺族動線と、他利用者の動線はできるだけ交わらないようにする	①		
	家族控室	1	12	12					①同時に4人が使用できるスペースを設ける	①		
1 1. 臨床工学部門												
臨床工学	機器保守室	1	80	80					①充電用電源、医療ガス、洗浄用給排水を設けること ②スタッフ執務エリアは什器等でエリア分けを行う	① ②		
1 2. 内視鏡検査部門												
内視鏡検査	内視鏡室	5	20以上	100					①内視鏡室を裏動線で繋ぐスタッフ動線を設ける。内視鏡器材の使用後から洗浄・保管の動線を効率的にするように配慮する ②部門内で使用するホルマリンについて、設計時に部門内での対策方法を検討する。（部門内1か所に局所排気設備の設置を想定する） ③患者のプライバシーに配慮した動線計画とすること	① ② ③		
	内視鏡透視室	2	36以上	72					①ベッド搬入可能なスペースを確保すること ②上部と下部の併用を行う	① ②		
	同上操作室	1	適宜						①うち1室は気管支鏡検査に備え、陰圧対応可能とすること ②空気清浄度クラスⅤ（HEAS）とする ③ベッド搬入可能なスペースを確保すること	① ② ③		
	受付	1	2	2					①内視鏡透視室に隣接して設ける	①		
	患者用トイレ 個室	2	2	4								
	患者用トイレ 車椅子用	2	4	8					①前処置室と隣接配置とすること	①		
	患者用更衣室 男女	2	20	40					①前処置室と隣接配置とすること ②左右の向きが異なるトイレとし、半身の不自由な患者が使用しやすい形とする	① ②		
	患者用更衣室 男女	2	20	40					①男女を区分し、同時に計10人程度が使用可能なスペースを設ける ②室内に車椅子患者が利用できるスペースを確保する。	① ②		
	前処置室	1	20	20	上部下部合わせ5人+車椅子3台				①上部と下部消化管検査の前処置:5人分+車椅子3台分程度のスペースと椅子、テーブル、テレビが設置可能なスペースを確保すること	①		
	リカバリー室	1	60	60					①上部、下部で共用 ②リクライニング可能なベッド台数:4台、ストレッチャー:4台が設置可能なスペースを確保すること ③内視鏡室と隣接配置とすること	① ② ③		
	説明室	2	10	20					①6人（医師3名、患者家族3名）程度が使用可能なスペースを確保すること	①		
	洗浄室	1	20	20					①洗浄エリアと器材保管・準備室は、洗浄済み器材の衛生管理が十分に行えるように配置すること ②バックヤードは物品の搬送を考慮した配置とする ③清潔・不潔動線に配慮する ④内視鏡洗浄装置を配置し、周りは排気環境に配慮する	① ② ③ ④		
	内視鏡保管庫	1	15	15					①ファイバー保管棚を設置する ②各検査室との位置関係に配慮された場所に配置し、必要に応じて複数に分けることも可能とする	① ②		
	器材室	1	10	10					①医薬品、診療材料等の棚、及び保管棚を設置し、各準備作業ができるスペースを確保すること	①		
	スタッフ室	1	20	20					①所見記載やカンファレンスを行う部屋として確保する	①		
	スタッフ動線		適宜		適宜配置				①各内視鏡室、洗浄室を繋ぐ動線を確保する。	①		
待合		適宜		適宜配置				①同時に20人程度が使用できるスペースを確保する	①			
1 3. リハビリテーション部門										①病棟からの動線に配慮する（脳神経外科、循環器・呼吸器・整形外科系） ②外来からのアプローチに配慮する ③病棟リハビリ室を病棟フロアごとに1室ずつ設ける	① ② ③	
リハビリテーション	理学療法室	1	300	300					①脳血管疾患等リハビリテーションⅠ（併用可）、運動器リハビリテーションⅠ（併用可）、呼吸器リハビリテーションⅠ（併用可）、心大血管疾患リハビリテーションⅠ、がん患者リハビリテーションⅠ（併用可）を別々に取得できること ②直線で20m程度の歩行可能なスペースを確保し、周回により更に長い距離の歩行訓練ができるようにする ③心臓リハビリテーション用のスペースを確保し、心臓リハビリテーションに必要な機器を配置する	① ② ③		
	作業療法室（ADLコーナー）	1	含		理学療法室と同フロア				①キッチン（昇降式、IH、フード、給水・給湯・排水）、洗濯機、畳等を設置できるスペースを確保すること ②理学療法室と同一フロアとする	① ②		
	言語療法室	3	9以上	27					①脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰの個別療法室の施設基準を確保すること ②音への配慮をおこなうこと ③2方向への出入口を設ける	① ② ③		
	診察室	1	10	10					①リハビリテーション科診察として実施できるスペースを確保する ②2方向への出入口を設ける	① ②		

（様式11） 諸元表チェックリスト										グループ名：	
必要諸室		全般							施設要求水準 充足チェック （○のみ）	留意事項（要求水準を充足するための工夫等）	
部門名	諸室名	要求面積			備考	提案面積			施設要求水準		
		室数	想定 面積	規模 ㎡		室数	想定 面積	規模 ㎡			
	受付	1	4	4					①1～2名が受付の執務をできるスペースを確保すること ②カウンターの高さは、車いすでの利用者にも対応できるよう、ユニバーサル仕様とする。	① ②	
	待合スペース	1	適宜						①リハビリ部門の入口付近にスペースを確保する	①	
	スタッフ室	1	30	30					①PC入力等で利用できる部屋として活用する	①	
	器材庫	1	20	20					①リハビリで使用する器材を保管する ②装具等の備品を保管できるスペースを確保する	① ②	
	患者トイレ	1	4	4					①車椅子対応とする ②他部門と兼用できるように部門外廊下に設置する	① ②	
14．栄養部門									①約1200食/日を想定する ②クックサーブ方式を基本とする ③HACCPの考え方に基づく計画・運用を行う ④熱源は電気とガスのベストミックスとし、災害時に配慮する ⑤配膳・下膳・ゴミ動線の分離に配慮する	① ② ③ ④ ⑤	
栄養部門	検収室	1	適宜						①栄養管理室に近接し、かつ業者からの搬入が容易な場所に設置すること ②ゴミ排出ルートと搬入ルートがクロスしない動線とすること ③検収に必要な備品を置き、検収作業ができるスペースを確保すること ④検収室から食品保管関係室への物品の搬入動線に配慮した配置とすること	① ② ③ ④	
	冷蔵室	1	適宜						①4～5日分の食品が保管可能な冷蔵庫を設置すること ②プレハブ冷蔵庫とすること ③肉・野菜・魚のそれぞれの専用スペースを確保すること ④外部からの搬入動線に配慮すること	① ② ③ ④	
	冷凍室	1	適宜						①4～5日分の食品が保管可能な冷蔵庫を設置すること ②プレハブ冷凍庫とすること ③外部からの搬入動線に配慮すること	① ② ③	
	食品庫	1	適宜						①5日分の食品が保管可能なスペースを確保すること ②パン保管スペース、米保管スペースを設ける ③外部からの搬入動線に配慮すること	① ② ③	
	日配品食品庫	1	適宜						①日配品などそのまま配膳車に出すことができる食材を保管する ②配膳車プールに隣接して配置し、外部からの搬入動線にも配慮すること	① ②	
	倉庫	1	適宜						①予備の食器、消耗品を保管する	①	
	下処理室	1	適宜						①肉、魚及び野菜の作業動線が分かれ、それぞれのシンク・作業台を分けて設置する ②原材料保存食専用冷凍庫を設置する ③フードスライサーなどの必要器材を配置できるスペースを確保する ④泥落・下処理・上処理のスペースを区分できること ⑤調理室との間に、バススルー式冷蔵庫、乾物品等の受け渡しのためのバスボックスを設置すること	① ② ③ ④ ⑤	
	調理室	1	適宜						①クックサーブ方式での調理を基本とし、必要に応じて一部クックチル方式での調理も行えるようにする ②下処理室との間に、バススルー式冷蔵庫、乾物品等の受け渡しのためのバスボックスを設置すること ③ガス式炊飯釜、洗米機、スープケトル、回転釜、スチームコンベクション、リヒートクッカー、フライヤー、プラストチラー、製氷機、氷水チラー、保存食用冷凍ストッカー、チルド庫、真空調理機等の調理機器を配置できるスペースを確保すること ④嚥下食調理、アレルギー食調理、形態調整、和え物調理のためのスペースを区分して計画すること	① ② ③ ④	
	製品チルド庫	1	適宜						①調理後にチルドされた食品を保存し、一部クックチル運用を行えるようにする。 ②調理室に隣接していること	① ②	
	盛付スペース	1	適宜						①洗浄室との間には、バススルー式食器消毒保管庫を設置すること ②配膳車プールとの間にバススルーの棚を設置する	① ②	
	配膳車プール	1	適宜						①温冷配膳車:10台程度が充電可能とし、配膳車廻りでの作業ができるスペースを確保すること （42膳対応の温冷配膳車を想定し、取り回しに考慮されたスペースを確保すること） ②温冷配膳車の清拭スペースを確保すること	① ②	
	衛生準備室（前室）	1	適宜						①厨房に入る前の手洗い、身支度を行うためのスペースを確保する ②スタッフ用手洗器を3台設け、肘まで洗える構造の自動式混合水栓とすること ③下処理室・衛生区域に対し、それぞれの出入口を設けること ④靴箱を置ける場所を確保する	① ② ③ ④	
	下膳車プール・洗浄室	1	適宜						①下膳車プールから洗浄室への動線を確保する ②洗浄用の室とし一角に回収後の下膳車10台を一時保管できるスペースを確保すること	① ②	
	トイレ	4	適宜						①栄養部門内の衛生に配慮された場所にトイレを設置する	①	
	更衣・休憩室	2	適宜						①男女別とし、女性30～40人、男性20～30人程度のロッカーを配置する ②男女各室に休憩できるスペースを確保する	① ②	
栄養課事務室	1	適宜						①配膳室が目視確認できる場所に配置すること ②配膳室との間には、書類等の受け渡しのためのバスボックスを設置すること ③病院側栄養士と委託側栄養士が執務できるスペース、書類等を保管するスペース、小打ち合わせスペースを確保すること	① ② ③		
ギャベジ室	1	適宜									
備蓄倉庫	1	30	30					①経管栄養食・非常食の保管庫とする ②栄養部門内には含めず、栄養部門の近傍に配置する	① ②		
15．管理部門									①正面玄関付近に、タクシー乗り場、小型バス停留所を設置できるスペースを確保する。 ②駐車場は、身体障がい者用9台以上を含め350台程度を確保する。また、平面駐車場として、公用車・サービス用として10台程度のスペースを設ける ③駐輪スペースは、病院敷地内に300台を設ける ④会議室のうち1室は、救急部門の周辺に配置し、災害発生時に対策本部として使用することができる想定とする	① ② ③ ④	

必要諸室		全般							施設要求水準 充足チェック (○のみ)	留意事項(要求水準を充足するための工夫等)	
部門名	諸室名	要求面積			備考	提案面積			施設要求水準		
		室数	想定 面積	規模 ㎡		室数	想定 面積	規模 ㎡			
管理系諸室	総長室	1	18	18					①事務机、キャビネット、応接セットを想定する	①	
	院長室	1	18	18					①事務机、キャビネット、応接セットを想定する	①	
	看護部長室	1	18	18					①事務机、キャビネット、応接セット（ミーティングスペース）を想定する	①	
	事務長室	1	18	18					①事務机、キャビネット、応接セットを想定する ②医事課事務室に隣接する	① ②	
	将来幹部諸室	3	18	54					①事務机、キャビネット、応接セット（ミーティングスペース）を想定する	①	
	業者打合せ室	1	30	30					①医局に近い場所に設ける	①	
	医局	1	420	420	医師130人 ラウンジ・医局事務を含む 部長以上は備品によりブースを設ける				①ラウンジ、医局事務を含む ②オープンスペース:85名分程度 ③個室・ブース席：45人程度	① ② ③	
	メディカルアシスタントスペース			含	医局内に含む				①4-5席＋医局秘書が利用できるスペースを設けること ②医局内に設けること	① ②	
	研修医室	1	50	50					①医局に近接させ、またコミュニケーションスペースに隣接して設ける ②研修医20人程度のしスペースを設けること ③執務エリアとミーティングエリアを設けること	① ② ③	
	コミュニケーションスペース	1	30	30					①医局内に設けること ②医局エリアと研修医専用施設スペースの間に配置 ③共用休憩やカンファレンスに使用できるオープンスペースとする ④図書室と兼務とする	① ② ③ ④	
	看護部事務室	1	40	40					①執務5人＋ミーティング10人＋給湯スペース程度のオープンスペースを設けること ②看護部長室に隣接させる	① ②	
	実習生室	1	72	72					①看護部事務室に近接させる ②60名程度をミーティングテーブルで収容できるスペースを確保する	① ②	
	同上更衣室	2	20	40					①実習室に近接して設ける ②男女別で設け、男女の面積区分けは設計時に調整する。	① ②	
	診療推進室	1	40	40					①12人程度が執務できる部屋とし、認定看護師ほか多職種が利用することを想定する	①	
	講堂兼職員食堂	1	250	250	300人程度 パントリー・WC・厨房30㎡含む				①講堂としての使用時も、可動間仕切りによって一部職員食堂として使用できること ②研修会、講演会、学術発表会に対応可能な映像・音響設備を設けること ③定員は300人（椅子掛け）程度とする ④専用の厨房を設ける ⑤一般の方の利用に配慮した場所に配置する	① ② ③ ④ ⑤	
	会議室 大	1	120	120					①スクリーン、映像、音響設備を設けること ②可動間仕切りを設置し2室として利用を可能とすること ③定員は、仕切りをしない状態で100人程度とする ④健診室、災害対策室としての機能も兼用する	① ② ③ ④	
	会議室 中	2	50	100					①可動間仕切りを設置し2室として利用を可能とすること ②定員は30-50人程度とする	① ②	
	会議室 小	3	30	90					①定員は10-30人程度とする	①	
	オープンカンファレンススペース		適宜		院内管理エリア内適所に配置				①スタッフが小打ち合わせや休息、執務を行えるスペースを院内各所（管理エリア付近）に設ける ②打合せや執務用のスペースづくりは、什器等により行う	① ②	
	シミュレーション室	1	30	30					①備品を保管できる場所を設ける	①	
	職員更衣室（男）	1	100	100	洗面+WCを加える				①約350名分のロッカーが設置できるスペースを確保すること ②洗面コーナーを設けること	① ②	
	職員更衣室（女）	1	240	240	洗面+WCを加える				①約750名分のロッカーが設置できるスペースを確保すること ②パウダーコーナーを設けること	① ②	
	ユニフォームストック	適宜	適宜						①各職員更衣室に設置すること ②更衣室セキュリティの外側に設けること	① ②	
	仮眠・当直エリア	1	80	80	医師分US2室+仮眠・当直室10室				①医師用として仮眠・当直室10室とユニットシャワー2ヶ所を設けること ②それぞれの仮眠・当直室に、当直用ベッド1台を設置できるスペースを確保すること	① ②	
	総合受付	1	21	21					①再診受付機3～4台分のスペースを近傍に設ける ②カウンターの高さは、車いすでの利用者にも対応できるよう、ユニバーサル仕様とする	① ②	
	会計受付	1	6	6					①自動精算2～3台分のスペースの近接に設けること ②カウンターの高さは、車いすでの利用者にも対応できるよう、ユニバーサル仕様とする ③会計待ち表示システムの設置を想定すること	① ② ③	
	事務室	1	120	120					①事務スタッフ30人程度の執務スペースを設ける	①	
	ボランティア室	1	10	10					①事務室付近に配置する	①	
	応接面談室	2	6	12					①事務室の近傍に設ける	①	
	給湯室		適宜		適宜配置				①管理エリア、医事課事務室エリアに、必要に応じて配置する	①	

（様式 1 1） 諸元表チェックリスト

グループ名：

必要諸室		全般							施設要求水準 充足チェック （○のみ）	留意事項（要求水準を充足するための工夫等）	
部門名	諸室名	要求面積			備考	提案面積			施設要求水準		
		室数	想定 面積	規模 ㎡		室数	想定 面積	規模 ㎡			
	守衛室	1	10	10					①時間外受付と兼用することも可能とする	①	
	時間外受付当直室	3	6	18					①時間外受付に近隣する配置とする	①	
	医療安全室	1	20	20					①2人程度の執務スペースとする ②数名のカンファレンスができるスペースを確保する	① ②	
	感染対策室	1	20	20					①4人程度の執務スペースと面談スペースを確保する	①	
	診療情報管理室	1	40	40					①医局に隣接して設置する ②10人程度の執務スペースとする	① ②	
院内保育	保育室	1	100	100					①30人程度の児童を預かるスペースを確保する ②幼児が安全に利用できるよう、建具等の適切な処理を行うなど配慮すること	① ②	
	事務室	1	25	25					①院内保育エリアの入口付近に設ける	①	
	トイレ	1	15	15					①幼児が利用するのに配慮された器具等を設けること	①	
	調理室	1	20	20							
患者・利用者厚生部門	院内学級	1	40	40					①入院している児童・生徒が利用するのに利便性が高い場所に配置する ②2名分の教職員執務スペースを設ける（什器等で分ける）	① ②	
	コンビニエンスストア・売店スペース	1	120	120					①ATMを配置する	①	
	ラウンジスペース	1	80	80					①患者の休憩ゾーンとして整備する ②コンビニエンスストア・売店のイートインコーナーとすること	① ②	
	コインランドリー	1	15	15	入院患者用（院内1か所）				①洗濯機・乾燥機：院内に1台を設置できるスペースを確保すること ②車椅子でも使用できるスペースを確保すること ③病棟フロアからのアクセスを考慮すること	① ② ③	
	組合室兼倉庫	1	30	30							
共用	清掃員控室・更衣室	1	30	30					①室内に更衣スペースを確保する	①	
	清掃用具庫	1	36	36					①清掃用具は集中管理とする ②清掃カート20台程度を保管し、モップ類の洗濯・乾燥を行うことができるようにする	① ②	
	WC		適宜		各フロア内に適宜計画				①車いす用・オストメイト対応のWCを、外来患者が利用する各フロア1ヶ所以上設置すること ②外来患者が利用するフロアについて、フロアに1か所介助用ベッドを設ける ③同フロアに複数か所設ける場合は、左右の向きが異なるトイレとし、半身の不自由な患者が使用しやすい形とする	① ② ③	
	授乳室	1	6	6					①外来患者の利用に配慮した場所に設けること	①	
	車椅子収納エリア 正面玄関	1	10	10	30台分 正面玄関付近				①諸元はエリア設置個所に従属する	①	
	車椅子収納エリア 寝台E V 付近	1	5	5	5台分 寝台EV付近				①諸元はエリア設置個所に従属する	①	
その他	タクシー乗り場	1							①正面玄関とのアクセスに配慮された場所に設ける	①	
	タクシー待機場所	1							①正面玄関とのアクセスに配慮された場所に設ける	①	
	コミュニティバス乗り場	1							①正面玄関とのアクセスに配慮された場所に設ける	①	
1 6. 医療情報部門									①スタッフの職員用通信端末はスマートフォンを想定し、電子カルテ・ナースコールと連動させることを想定する（別途工事での対応：参考） ②サーバ室は水害等に配慮し、地上階かつ病棟階より下層階への配置とする	① ②	
医療情報	サーバー室	1	80	80					①院内全てのサーバーを集約配置できるスペースに加え、システム更新時の予備スペースを確保すること ②サーバーラック 床置き型送風機を設置 ③発熱量に対し十分な空調・換気設備、サーバーに配慮した消火設備仕様とする ④出入口扉はサーバーラックの出入りを想定する ⑤将来対応・NW用・PBXを含めて、ラック16本程度の広さを確保する ⑥フリーアクセスフロアとする	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	
	情報管理室	1	20	20					①3人程度のSE執務スペースと作業できるスペースを確保すること	①	
	予備機保管室	1	20	20					①職員導線を考慮し、サーバ室に隣接する	①	
1 7. 物品管理部門											
供給関係	S P D倉庫	1	100	100					①中央材料部門との近接性に配慮すること ②カート台数：最大5台を配置できるスペースを確保すること ③検収スペースを含むこと ④物品の保管スペースを含むこと ⑤工作スペースを設けること ⑥院外SPDを前提とする	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	

(様式 1 1) 諸元表チェックリスト										グループ名: _____	
必要諸室		全般							施設要求水準 充足チェック (○のみ)	留意事項(要求水準を充足するための工夫等)	
部門名	諸室名	要求面積			備考	提案面積			施設要求水準		
		室数	想定 面積	規模 ㎡		室数	想定 面積	規模 ㎡			
	マットレス倉庫	1	20	20					①ベッドのマットレスの中央保管スペースとする ②ベッドメンテナンスは病棟内で行う	① ②	
	清潔リネン倉庫	1	36	36							
	不潔リネン庫	1	30	30							
	備蓄倉庫	1	50	50					①3日分の非常食や、薬品、防災備品等の保管を行う	①	
廃棄物関係	ごみ置場	1	20	20					①院内から搬送し、そのまま院外に搬出できる場所に配置する ②廃棄物区分に応じて、部屋内でゾーンを分けることができるようにする	① ②	
	感染性廃棄物置場	1	10	10					①周辺諸室に対して負圧となるように空気の流れに配慮すること ②院内から搬送し、そのまま院外に搬出できる場所に配置する ③廃棄物搬送を想定するEVからの動線に配慮する	① ② ③	
	粗大ゴミ置き場	1	10	10					①屋外からアクセスする ②入口に屋根を設ける	① ②	
1 8. 設備部門											
設備部門	中央監視室		適宜		適宜配置				①図面や施設管理に必要な資料等の収納スペースを確保すること ②施設中央監視に必要な設備を確保するための面積を確保すること ③4人程度の執務スペース（用度課）を設ける	① ② ③	
	機械室		適宜		適宜配置				①諸元は右表によらず、設置する機械に必要な備えを設けること	①	